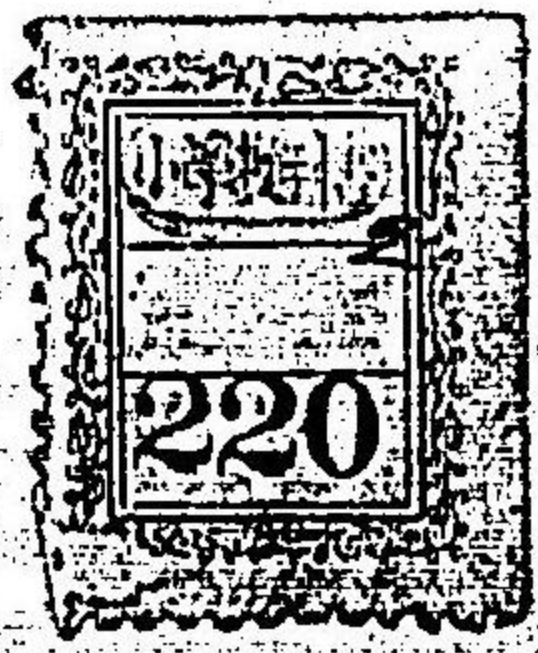


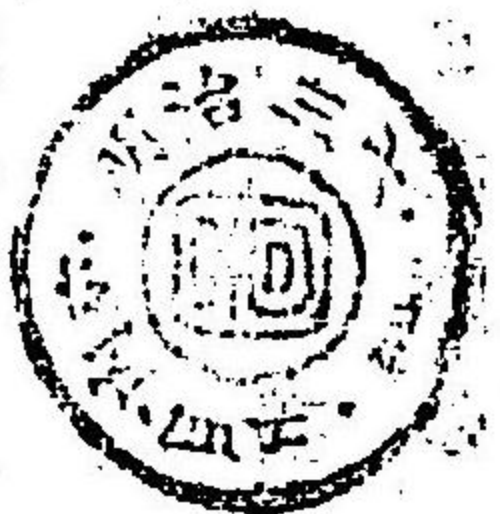
039

生徒参考用
福岡縣地理のはなし
附 生徒参考用 分割地圖福岡縣之部



生徒用福岡縣地理のはなし

編纂の主旨は必き讀んで下さい



縣地教授に就ては從來區々の説が行はれてゐる前小學校令には縣地理なる名目があつて教科書も備はつて居たが現小學校令には縣地理は事は見えない従て縣地理書の編纂者も出らないそこで縣地誌は教ふる者が教へざる者かと言ふに就て議論がある余は大に縣地理教授の必要と感じ特に多くの時間を斯科に用ひねばならぬといふ者である其理由は左の如し

第一 基本觀念の養成に就て

地理の基本觀念は學校附近の地理につきて教ふれば事足りるといふ論者あれども學校附近のみを知りたるにては地理上に用ふる普通の熟語だけでも教ふる事が不足である又進んで他府縣の地理

を教ふるに當りて先づ自身住居の縣地を知らざれば他府縣を解釋する單位がないので比較推量が出来ないのである。例へば福岡市の人口七萬を知る丈けで熊本縣は人口百萬人と聞くと市の七萬と縣の百萬は比較する事の出来ないのでは是非福岡縣の百五十萬人と比較せねばならぬ熊本縣の米作百二十萬石は福岡縣の百六十萬石と比較せねばならぬ故に福岡縣を知らざして他府縣の地理を學ぶと云ふ事は尺度を用ひざして距離を計ると同じ事である。

第一 生活上の智識として縣地理は特に精細に教ふる必要あり

地理は實業思想の養成學科なり實業の基本學科なり愛國心の養成公德發展の學科なり是等の目的に向つて我縣の事情と我縣の

價值を知る事は生活上直接關係深き智識である故に日本地理の中に於て縣の地理は特に精細に教ふる必要あり故に福岡縣地理は高等一學年の初めに於て教ふるのみならず二學年の終り日本地理を終りて更に精細に縣下の地理を教へ日本全國に對する我縣の位置と價值を確か先向進んで萬國に對する我縣の地位を教ふる必要あり

教授的方法的單元

從來地圖又は地理書を營くに教授的方法的單元といふ事には至つて冷淡であつた爲に地圖の讀み方も書き方も地理書の見方も分明せずして只地圖は粟いがのモヤ／＼する感じがあるので地理研究といふも其實書物の文字の讀み方をなもので無意義に暗誦を務むる計りであつた余はこゝに感ぜざるを以て福岡縣地圖を四單元に分つ爲に三枚の圖に分割したのである(内一枚には二單元

を含む)

其單元の取り方は生業物産交通人情風俗の相類似した地方を取る事が必要と思ひ而して其類似はすべて川の流れ即分水線の方向範圍内に従つて一致せる事を實驗してかよふに分けたのである

地圖の單色

地圖を單色に印刷したのは一見讀み難き感あれどもこは大に生徒に作業の餘地を與へたる者にて川の筋には青木筆にて染めさせ道路は赤木筆にて都會も赤木筆にて染めさせる内に筋肉の働き加はり大に位置方向等確實なる觀念を練習せしむる事の出来るといふ主旨である
生徒の自發活動
地理書の中に特更ふ脱字をなし又は問を設けて答を書かせ或は

方位を示さざる等は皆地圖を讀めば分明する事にて是非共地圖を讀まざれば地理書の解釋の出來ざる様お設けたるなり即ち生徒をして地圖と地理書と首引せしめんとどの旨又外ならせ
然れども余は諸君に謝す今回の著は只余が理想を初めて筆に現はしたる者にて實驗と經たる結果にあらざれを實地經驗の曉には多々謬見を發見する事あらんと信命特に教師諸君實驗の結果高見を仰ぎて漸次完全の域に進まん事希望の至りに堪え奉

明治二十六年四月九日

舞鶴城下

釜瀨新平謹識

生徒諸君よ、地理の書物を讀む時は、地圖と摸型をいっ
ぱらよにならべて置いて見ませぬと、わかりませぬ、書物
の文字ため讀んで、地圖を讀まない人、決してけいこ
まはできません、地圖を見る時は、青木筆で川の色を染め、
赤木筆で都邑と道路の色をむる事が大切です、(高地
と低地も色別にするがよい)

福岡縣地理のはなし

地理書を讀む時の注意

生徒諸君よ、地理の書物を讀む時は、地圖と摸型をいっ
ぱらよにならべて置いて見ませぬと、わかりませぬ、書物
の文字ため讀んで、地圖を讀まない人、決してけいこ
まはできません、地圖を見る時は、青木筆で川の色を染め、
赤木筆で都邑と道路の色をむる事が大切です、(高地
と低地も色別にするがよい)

總論

生徒諸君、此摸型と地圖と見てとらえ、これは、我福岡縣を、小さ
な形に寫した者であります、どんな形をして居ます

二
 西の方脊振山脈より、東英彦山脈に向つて、一線を引き其兩
 端から門司半島に線を引くと、三角の形が見えます。此三角
 の南も五角になります。

何の形に似て居ます(家の形です。人が笠をかぶつた)
 其次は地勢を讀んでごらん、土地の高い處と低い處は何處で
 す、高い處は英彦山御前岳の近傍で、低い平たい處は、
 第一、南の五角形の土地です、即筑後川矢部川の流れてる處、
 第二、北の三角形の中央で、遠賀川の流れて居る地方、
 第三、西の玄界灘に向いて居る福岡市近傍の三角形の土地、
 第四、東北地方即ち周防灘に向へる地方、
 以上の平地を流れて居る川と川の分水線は何山脈です、



右の形を地圖模型とくらべて、分水の見分けをします、
 地理のはなとは、右の地勢によつて、何事も違つて居ますから、
 今から各地方についてしらべませう、

玄海灘斜面區域即福岡市附近

宗像郡鐘岬より、西南の海と、玄界灘といひます、此海に向へる

糸島郡 (糸島郡) 早良郡 (早良郡) 筑紫郡 (筑紫郡) 粕屋郡 (粕屋郡) 宗像郡 (宗像郡) 名所

早良郡長垂山の海邊より宗像郡鐘岬に至る迄十五里の海濱は白砂の上青き松生ひ茂りて生松原千代松原等乃名所あり (此松原は鐘岬より東門司につゞく) 特に海中道海上三里の白砂青松は日本三景に次いだ景色ぞす荒津公園の頂きより又は脊振寶満立花山の上より此景色をながむるおもしろきはとて筆には書きあらはず事できませぬ生徒諸君は學問の暇に登山して新しき空氣を呼吸し此景をながめ給へ 糸島郡芥屋大門 筑紫郡湯町 太宰府もよい所ぞす

人情風俗

人民質朴よみて勤勉の風あるも近年福岡市より稍奢侈の風が起りました注意すべき事ぞす 言語の改良すべきもの

福岡市を中心として間違の多い言葉を「ダトラ」(ダイコン) 「ドトロ」(コドモ) 「デトレ」(ウデ) 方言 あたき(ワタクシ) あけな(アシナ) がつじやい(ナサ) ぎつたい(トキハ) けん(カラ) はつて(ケレドモ)

筑後川及矢部川灌漑地方 卽五角形ヨ字形地方

地圖を見よ 分水線はどうかつてゐます

筑後川と矢部川は何處より流れ來り如何なる方向に流れて、何處の海に入つてゐますか、

此二大川の灌漑せる土地は、縣下第一、此平地を作り、久留米市を中心として七郡あり、

朝倉郡 浮羽郡 三井郡 三瀨郡 八女郡 山門郡 三池郡

(右の内朝倉郡を除き一市六郡を筑後國とす)

生業

平地の廣大なる上、地味の肥沃なること、縣下第一、これを農業最盛にして、又漁業あり、別に副産物の多きこと、縣下第一なり、

地圖上より各郡につき農産物を見出してごらん

(注意) 柳川町立花伯は、中山に農業試験場を設け、農業の改良を計らる、

副産物

織物 久留米、緋久留米、綿は、久留米市を中心として、三井、三瀨、

八女郡の女子家ごとに織れり、甘木、緋甘木、紋も多し、

莫産及華蕙、三瀨を中心として、山門、八女郡の農家、家ごと、

機を織る、

茶 八女郡の山中に産す、福島町に紅茶及磚茶の製造所あり、

八女郡の中央部に産す、筑後半紙として其名高し、

紙粉

八女郡は、小麦を粉にする業盛なり、

提灯及佛壇

八女郡福島町にて製す

八女郡三井郡朝倉郡にして蠟の産出多し

酒 米の産出多き爲酒の製造縣下第一、三瀨郡城島山門郡

瀨高

林産物

縣下山林にて最も價の貴きは八女郡東部の山林あり

林産物の種類と産地は地圖を見て答へてごらん

鑛産物

三池郡の石炭、八女郡星野の金

水産物

有明海と海底泥土より貝類を産す

矢部川筑後川には鮒鰻鯉鮎の産多し

交通商業

土地平坦にして九州鐵道南北に貫き筑後川東西に舟筏を通

ず交通極めて便利なり、久留米市は即此平原の中心點なり、

久留米市

筑紫平野の中央筑後川の下流の左岸にあり、人口三万余、昔は

有馬伯の城地にて今は陸軍二十四旅團三井郡國分村あり、中

學校商業學校、工業學校あり、井上阿傳の發明なる久留

米餅は此地の名産なり、紡績會社あり、又傘製造等の工業あり、

若津港三瀨郡大川町

筑後川の河口の左岸にあり、はき港に於て近傍平野の物産こ

はより積出さる

三池郡の大牟田町 (三池炭坑開けて俄に繁昌せり人口二万

余 山門郡の柳川町。昔立花伯の城地にて繁昌せしも、今も鐵道
 瀨高を過ぎ、交通の便あらしき爲め、大に衰ふ、
 八女郡の福島町。浮羽郡の吉井町。富豪家の多きこと縣下第
 一。朝倉郡の甘木町。三井郡の北野町等、各地方の中心地あり、
 久留米市を中心をたて、各郡に至る鐵道、國道、縣道、をひらべ見
 名所。八女郡矢部山中日向神山の奇岩、水繩山上より筑后川の平
 地を眺むる景、船小屋鑛泉(胃病に効あり)等、必余遊ぶべき處
 です。有明海の不知火は不思議ある火です。

人情風俗

以上の如く、土地肥、物産豊かなる上に、人民一般に質朴に
 て、勤勉貯蓄心に富める美風は、縣下第一です。故に各郡富有の
 家、多く實に福岡縣の寶庫です。

言語の改良すべきもの。此地方の言語は久留米市を中心として、一種のをかしき調
 子があります。

方言

- (ハイ)を(ナイ)といふ
- 書物ありますか
- (ナイ)あるといふ事
- (タイソー)といふ事
- (エトホト)といふ
- (デアルカラ)を(ダヤンゲンデ)といふ

即(ソレデアアルカラ)と(ソレシヤンゲンデ)といふ
(ナニゴトカ)を(チーゴツケー)といふ
(カヘランカ)と(ケーランカ)といふ
道の(横のホー)を道の(横ッ)といふ

遠賀川流域即斜方形地方

何山脈が此地方の分水界をなして爲ますか、
地圖を讀んで遠賀川の流を話してこらん、
物産は何と書いてあります、
運輸灌溉の便利、縣下第一なる遠賀川は南より北に流れ九州
鐵道は、東西南北に走り炭坑につゞける鐵道は左右に木の枝
の様に分れてゐる、此の中にある

遠賀郡 鞍手郡 嘉穂郡 田川郡の四郡は

明治二十年以來 福岡縣の富の源として、名高き石炭産出地

であります、

山の下、田の下、畠の下、家の底も、色黒き石炭が、一面に埋
まつて居ます、石炭を掘る坑夫の数は、四萬人、晝夜數百間の
地の底に入つて居ます、地中より石炭と水を引上ぐる蒸氣、
機械の烟突は、野の上山のすそ、其處より、此處にも林の様は、
立つて、其より出づる黒烟の爲は太陽の光りはうすくなり、草
木の色はなぐさつて居ます、

日日二十余輛の石炭箱を、むかでの如くつらねて、幾十回若松
港に運び出す鐵道は、石炭積の數千艘の川端が白帆をあけて、
上下する、遠賀川と相並び、其盛ある様、福岡縣下は固より、日本

全國何處に行くも、個様なる活潑な土地は、又見る事の出来な
 い程、賑やかであります、交通商業、
 各郡の交通路、及商業の中心地を、讀んで、(地圖を見て)
 直方町は、なぜ繁昌して居ますか、
 若松町は、なぜ繁昌して居ますか、若松の石炭は、何處に行きま
 すか、
 八幡町には、何故製鐵所がありまよか、(鐵の原料を遠く奥州の
 釜石支那の黄州から來るのです)
 人情風俗、
 此地方一般に土地肥へ、農作物豊かなる上に、石炭の産出盛に
 なりて、非常の繁昌をなし、爲に衣食住の奢侈は、縣下第一で、殆

んど金と見ること、土石の様に、思ふ人がありますので、今日は、
 却て富有家が少くなつて居るとの事です、(有名な炭坑の坑主
 や商人は他國の人が多くて、福岡縣の人は、他國の人よ使はれ
 て居ます、
 此地方の生徒諸君は、質素と貯蓄心を養ふ事が、大切な注意で
 す、

言語の改良すべきもの

直方飯塚を中心として此地方の方言は

(ナヨル)といふ事が多い 例へば、何ぢちよるな、いちよ
 つたさい、ちちよんあさい、
 東北地方 即豊前の中二市三郡
 門司市

明治二十年以來、港を築き九州鐵道通トてより、九州と本州をつなぎ合する大切なる位置にて、筑豊石炭の集散所となり、今は貿易港にて、内外國の漁船、皆こゝを通り、石炭を積み出す漁船は、日日集まりて、非常なる繁昌して居ます、人口殆んど四萬人、

小倉市

昔は小笠原伯の城地にして、今は第十二師團を置かる、九州鐵道はこゝより、東西に分れて居ます、此地の製紙會社も有名なる工場です、其他工業には、昔より小倉織の名高かりしも、今は殆んど見ふべき者ありません、近來副産業として、手工の必要を感じ、小學生徒諸君が、狀袋張の稽古を起されて居るのは、實にけつと一な事と思ひます、

企救郡 京都郡 築上郡 (田川郡を加へて豊前の中四郡とす)

紫川は、企救郡の中央を北に流れ、今川、城井川、岩岳川は、京都、築上郡の中央を、東北に流れて、周防灘に入る、此流域の平地を農業盛にして、海邊は漁業、あれども、他の地方の様には、副産業がありません、築上郡に七島表あり、京都郡には養蠶盛なりとも、今は大に衰ふ爲に、一般に金が少しです

交通商業

九州鐵道は、小倉より分れ、海岸にそひて大分縣に至り、行橋町より、田川郡に入り、港に宇の島あり、

商業の中心地は、企救郡あては、小倉市、京都郡あては、行橋町、築上郡あては、八屋町なり、(豊津には中學校あり)

人情風俗

此地方一般に副産業をき爲か、人民の勤勉心、而筑地方に劣りて居ます、其上衣服を美にする悪い風があります、副産業と考へ出して勤勉と質朴の美風を養ふこと、此地方生徒諸君の心掛べき事と思はれます、

言語の改良すべきもの

言葉の終りよ (アンタナ) を附くる事多し

例へて 明日は天氣がよしなります (アンタナ) 山登りが出来ませう (アンタナ) 結構です (アンタナ) しつかりやりませう (アンタナ)

以上三枚の地圖をつぎ合せて、福岡縣地圖を作り、九州地圖日

福岡地理の總括

以上三枚の地圖をつぎ合せて、福岡縣地圖を作り、九州地圖日

本地圖と並べて次の話と読み合せてごらん、

福岡縣は何處にありませうか

福岡縣も九州の頭よありて、日本の本州と九州のつなぎ目に

あたつて居ます、即大分縣より熊本縣より佐賀、長崎縣より

來る鐵道は皆福岡縣を通りて、本州山口縣につゞめて居ます、

北に玄海灘響灘ありて、韓國、支那、露領シベリヤに最も近い

處です、

福岡縣の廣さは

幅員 東西二十七里二十町 (糸島郡より築上郡まで) 南北三十里五町 (三池郡より企救まで)

此中に人間が何人住んでゐますか

人口 百五十三萬二千人 (全國一縣に平均人口九十萬人)

一方里平均人口 (全國一方里平均人口一千七百

人)

縣下では何れの地方が人口多いですか

第一 筑後川、矢部川流域 第二 遠賀川流域 第三 福

岡市附近 東北地方最も少いです

何故人口に多少がありませう 考へてごらん

其人口は何をして生活してゐますか

農業 商業 鑛業 工業 漁業 等

右の仕事は何處の地方に盛なるか答へてごらん

物産一年の産額

米 百六十萬石 日本第三位 人口一人に付平均 (一石

斗) (全國の平均九斗)

農産物 麥 七十五萬石 (全國の平均麥は米の半額なり)

茶種 十萬石 日本第一位 藍 九百萬斤 日本第二位

櫛實 二千萬斤 日本第一位 茶 二十萬圓

右の品を今日の相場にて算用してごらん

石炭 凡四百萬噸 價格凡壹千五百萬圓

鑛産物 内 七分遠賀、鞍手、嘉穂、田川二分三池一分其他

金 凡二貫五百匁價格凡壹萬貳千圓

織物 筑後國 百六十萬圓

筑前國 九十萬圓

豊前國 二千圓

工。産。物。

酒類 五百萬圓 日本第三位

紡績糸 三百萬圓

西洋紙 一百萬圓

蠟 八十萬圓

日本紙 四十七萬圓

蠟表、莫崖及花蕪 六十五萬圓

玄海灘及響灘 七十萬圓

有明海 十九萬圓

周防灘 十五萬圓

以上の物産は何處より何處に輸出しますか。

筑後の米は 若津港より 長崎、馬關、大阪地方に輸出す

筑前の米は 博多港より

豊前の米は 行橋宇ノ島より

三池の炭は大牟田港より肥前口ノ津港に送り

石炭 遠賀川流域の炭は 若松宇ノ島より門司に送り

(内外國に輸出す)

花蕪 若津港より神戸に至り亞米利加に輸出す

紅茶、磚茶 は露領シベリヤに輸出す

水産物 は長崎に送り支那に輸出す

交通 福岡を中心として各郡商業の中心地に行くべき道を求めよ、

及久留米、小倉を中心として交通の路を求めよ、

氣候 我福岡縣ハ一般に温暖なる土地です極暑は攝氏寒暖計三十

四、度極寒氷點以下、三、度海岸地方は寒暑共に差少く、海乃遠き處程差等多し、福岡近傍よりも、飯塚吉井近傍の地方、寒暑共に強し。

風向、は冬は西北、夏は東南の風多し。

晴天、凡二百日、雨天、凡八十日、曇天、凡六十日、雪、凡二十日

十日

暴風、凡二十五日、雷、凡二十七日、地震、凡七十回

福岡縣下の歴史

我福岡縣には、日本の歴史上、大切な事が澤山あります、神代に於ては、

天照皇太神宮の三女神、田心姫命、瑞津姫命、市杵島姫命

は、天孫を扶けんとて天降り給ふ即

官幣大社、宗像神社(田島、大島、沖島にあり)

官幣中社、英彦山神社(天忍穗耳尊を祭る)

官幣小社、竈門神社(神武天皇の御母玉依姫命を祭る)

國幣中社、高良山神社(高良玉垂命を祭る)

人皇以來

神武天皇、(二千五百年前御東征の時、遠賀郡岡港に寄り給ふ)

景行天皇、(千八百年前熊襲御親征の時、京都郡に御上陸あり、九州の南を巡り、三池郡に行宮を置かせられ、八

女郡、三井郡より、浮羽郡、浮羽島に休み給ひ、田川郡

より、企救郡に出で給ふ、

日本武尊、熊襲御征伐の時、福智山に上り、地形を見給ふと

神功皇后

云ふ、
(千七百年前)新羅を征し給ふ時は行在所を粕屋郡
香椎に置き給ふ、即

官幣大社

香椎宮は皇后を祭る

官幣中社

箱崎八幡宮

神功皇后新羅より凱旋し給ひ、宇美にて皇子應神

天皇御降誕まじく其胞衣と箱崎に納め給ふよ

り、應神天皇を祭る

齋明天皇の行在所

橘廣庭宮

は朝倉郡にあり(千二百年前)

天智天皇の行在所

木丸殿

昔九州の政治を司とす

太宰府は筑紫郡にあり、外寇防禦として太宰府の要害に築

かれたる

水城は天智天皇の御設計にして、今尚其あとあり、

管原道真公は千百年前朝廷より悪者の爲に太宰權師に流

され給ひ、袖の港に御上陸、太宰府に夢を給ふ、即

官幣中社、太宰府天満宮は、公を祭る所なり、

文永弘安の役六百年前、蒙古の兵十萬、攻め寄せたるは、福岡

縣の海岸なり、糸島、早良、博多の海岸に上陸し、太宰

府に推し寄せたる者、水城に於て防ぎ止められ、再

び博多灣に退く、弘安四年七月三十日、暴風大に起

り、敵艦盡く覆没す

蒙古塚(志賀嶋)蒙古山(糸島郡)の名あり、小呂島は殘兵を殺し

處)

二十七八年日清戦争の時 我出征軍を門司港より船出せり
此の外南北朝時代(五百年前)に於ては菊池武時九州探題北
條英時を博多に討ち武時敗れて戦死す早良郡谷及七隈原に
其墓あり

武敏は足利尊氏と多々羅川に戦ひ
菊池武光は征西將軍懷良親王を奉り高良山に陣し兵八千を
率ひ筑後川を渡り宮の陣に陣し太宰少貳頼尙等六萬の兵と
大原野花立山の近傍に戦ひて大に賊を破る親王は身に數創
を受け給ひ薨し給ふ太刀洗川宮の陣の將軍梅親王手栽の紅
梅あり
後征西將軍成良親王は八女郡矢部の山中昔は殆んど人跡稀
なる山中に匿れ薨し給ふ

戦國の世四百年前に至りては各郡城寨のあと數へきれぬ程
多し

即福岡縣の地は

日本の中にては外國に向つても常に大切なる場所に立てり、
されは今日に於ても門司半島に砲臺の設けあり、小倉に師團
司令部あり、久留米に旅團司令部あり、福岡に聯隊あり、一縣下
にして一個師團の備はれるは日本全國中、只我福岡縣一つあ
るのみ

生徒諸君よ

我福岡縣は、平地多く地味肥へ、氣候暖かにして農業にかなひ、石炭の多きは工業にかなひ、陸には鐵道の長さ事、日本第一位にして、海には二個の貿易港ありて商業にかなひ、三面の海には魚類多く、韓國の漁場にも近くして水産業に適せり、

然るに此等の業は未だ改良進歩せしむべき事甚だ多し學を修め業を習ひ以て我國を富有な

らしめよ

而して我縣の位置は、日本の歴史に於て、何時も大切なる場所に當り、我等の祖先は勇を奮ひ義に勇みて國の光りを世界に輝かしたること幾度なるを知らむと去れり我縣に住める生徒諸君はよく地の利を見祖先の遺業を想ひ常に運動して身體を鍛り勅語の御主旨を學びて忠君愛國の心をみがき一旦緩急あらば義勇公に奉むるの覺悟

あるべし。然るに古より九州男子として、身体強く、勤儉、質朴の美風ありしも、近年交通の便開け、富の度増したる爲、一般に、獨立忍耐の氣に乏しく奢侈の風を増長せり。勤儉貯蓄進取の氣を養ふこと、生徒諸君の大よ務むべき大切なる心得なり。

明治三十六年四月九日著作
 明治三十六年四月十二日印刷
 明治三十六年四月廿五日發行

(定價金拾錢)

著作兼發行者

釜瀨新平

福岡市荒戸町二百十三番地

印刷所

株式會社共文社

福岡市博多中島町一番地

印刷者

島村磯喜

福岡市東唐人町堀端六番地

不許複製

發賣所

地理模型研究所

福岡市荒戸町二百十三番地

D-39

二十八年六月廿五日
二十八年六月廿五日
二十八年六月廿五日
二十八年六月廿五日
二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

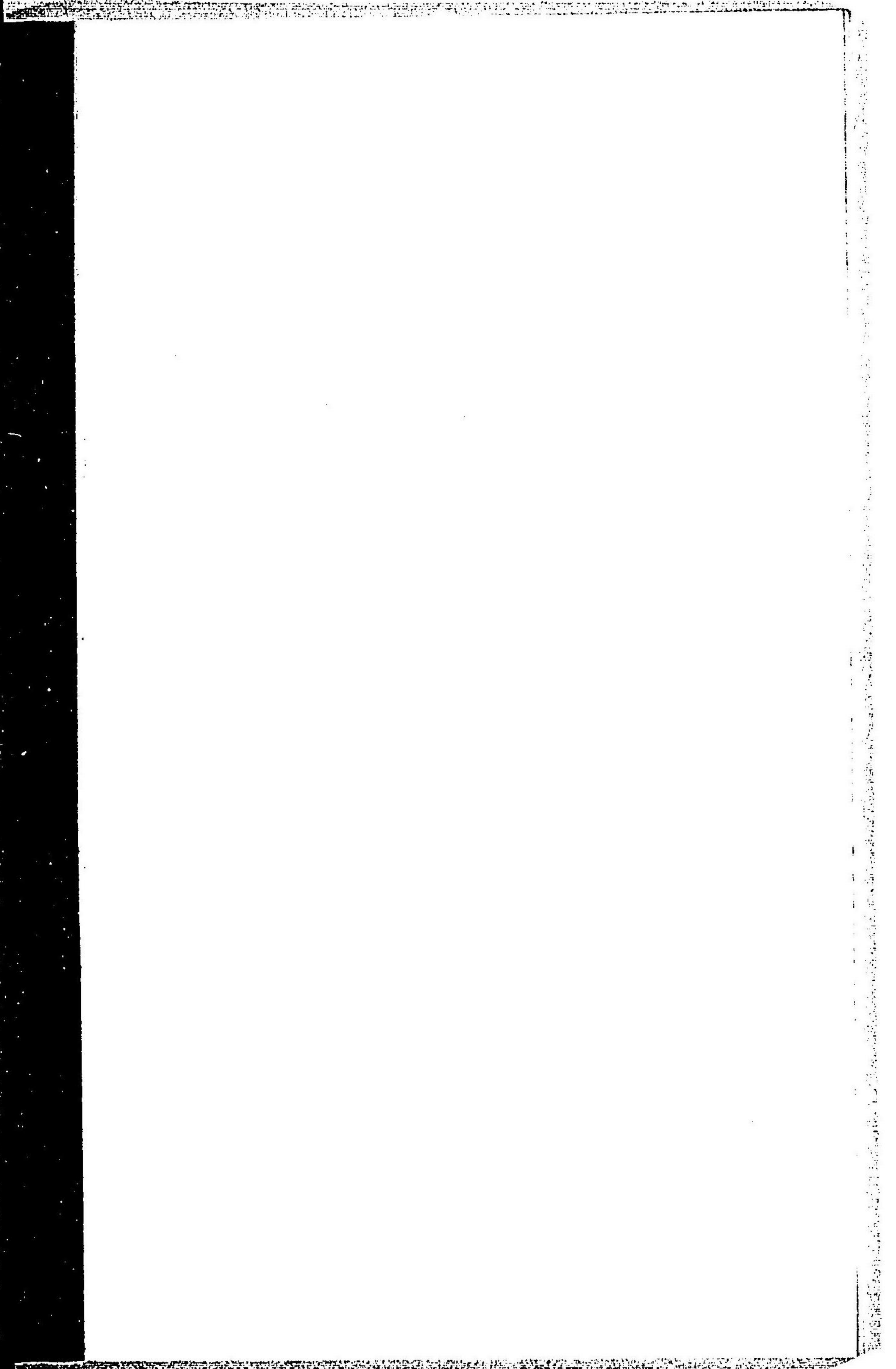
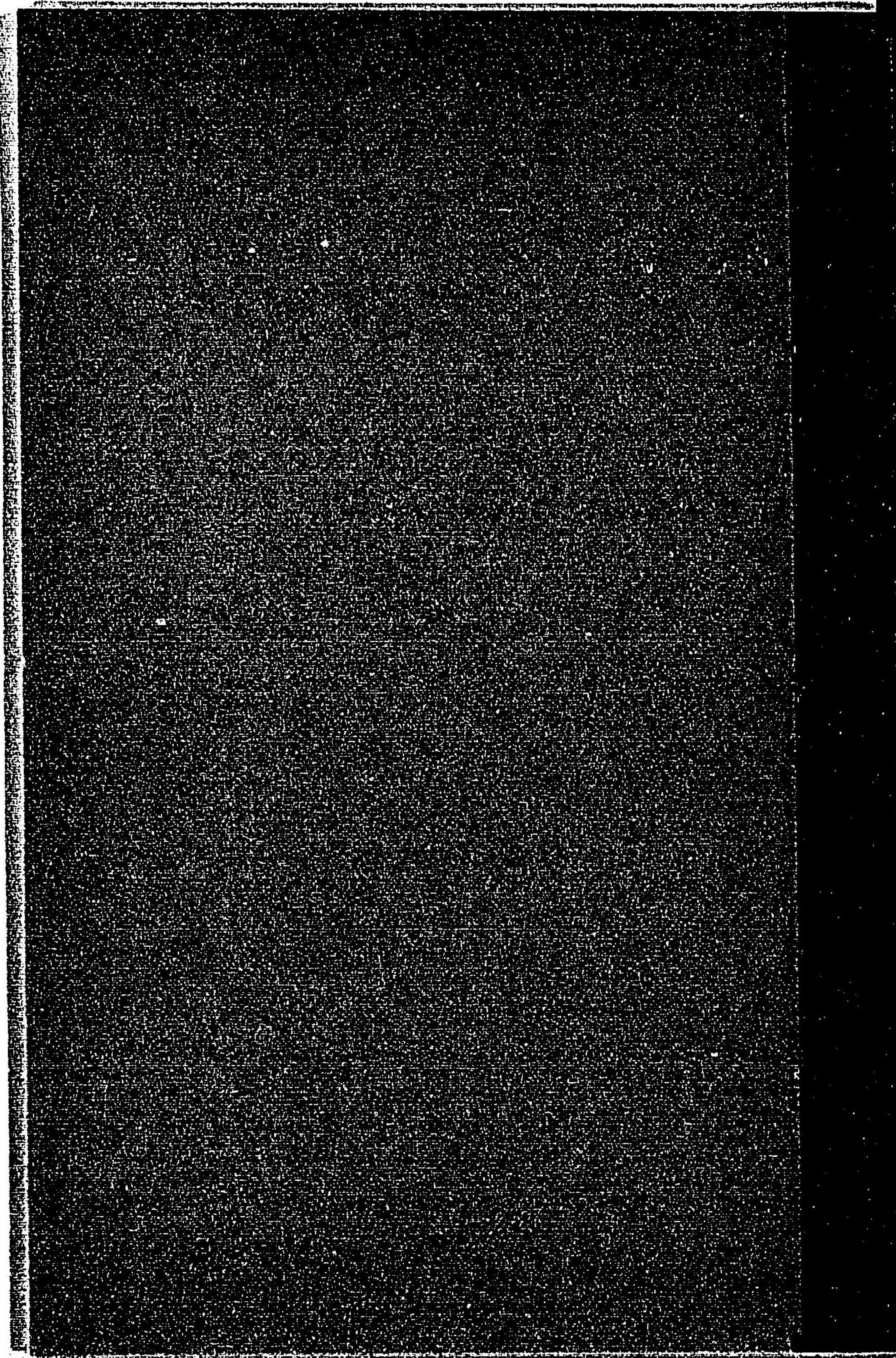
二十八年六月廿五日

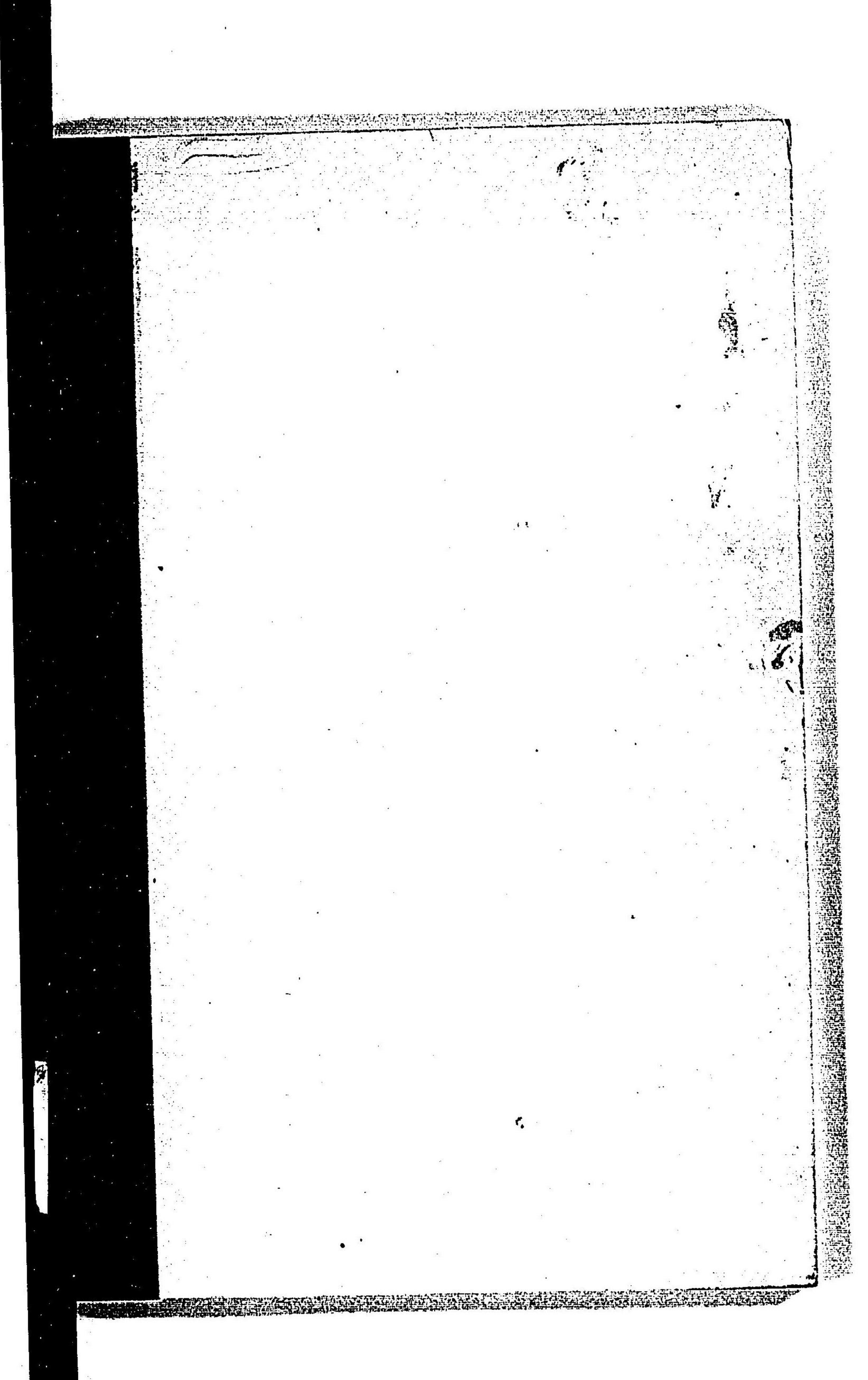
二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日

二十八年六月廿五日





生徒
参考用 福岡縣地理の
はなし
国立国会図書館

特
7

026304-000-8

特47-788

福岡縣地理のはなし(生徒参考用)

釜瀬 新平/著

M36

ADC-4090

